

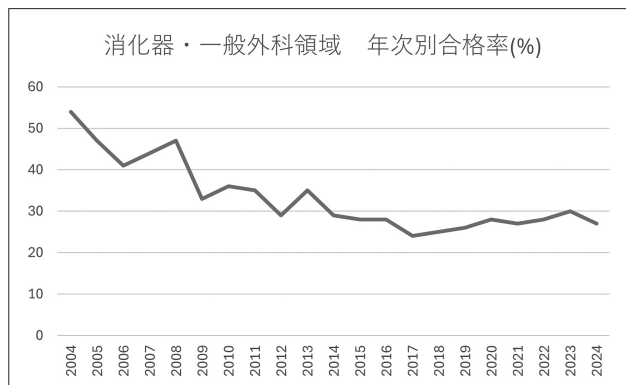
医心 伝心

日本内視鏡外科学会 「技術認定医制度」について

富山県医師会理事 原 拓央

今回は、日本内視鏡外科学会が実施している「技術認定医制度」について紹介させていただこうと思います。この制度は内視鏡外科手術における技術と安全性の標準化を目的に、2004年に創設されました。当初は消化器・一般外科領域に限られていましたが、その後呼吸器外科、泌尿器科、婦人科、小児外科などにも拡大し、現在では7領域で技術認定が行われています。2023年からは一部の領域でロボット支援下手術も審査対象に含まれるようになりました。

認定を受けるには学会専門医資格、十分な術者経験、学術活動に加えて、鏡視下手術の動画を編集なしで提出する必要があります。術中動画は手技の正確性、解剖の理解、安全配慮、チームマネジメントなど多角的な視点で厳しく審査されます。応募するのはある程度の技量を備えた外科医が多いと思われますが、消化器・一般外科領域での合格率は30%前後で推移しており、かなり高いハードルとなっています。(図)



2024年までに、消化器・一般外科領域では全国で3700人余りが技術認定医に認定されています。一方、富山県内で現在資格を維持しているのは31名です。日本外科学会の会員数は約4万人(富山県319人)、日本消化器外科学会では約2万人(富山県174人)であることを考慮すると、富山県での認定医数は決して多いとは言えません。一方、認定医は都市部に集中する傾向があるなかで、地方の中核病院が積極的に技術認定取得を支援し、若手外科医の育成に取り組む動きも多くの学会などで報告されるようになってきました。いずれにしても、今まさに修練を積んでいる外科医にとって、本制度は最も取得したい資格の一つなのは間違いないでしょう。

昨今、「消化器外科を志望する若手医師が減少している」という声が頻繁に聞かれます。適切な指導体制の構築はもちろん、労働環境の整備と改善が一層求められていることは重々自覚しております。より多くの若い医師たちと志をともにし、安心して働ける環境で高い目標に向かうことができればと日々願っています。

